

エクラート 手摺・手摺子・親柱

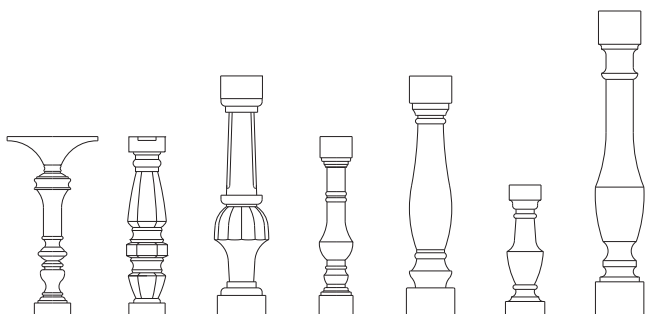
①

エクラート 手摺・手摺子・親柱(設計計画)

- ⚠注意 ●エクラート手摺・手摺子を施工するためには別途副資材が必要です。ご注意ください。
●コンパルソリー、セミックス笠木には取付けできません。

■使用部材

●手摺子

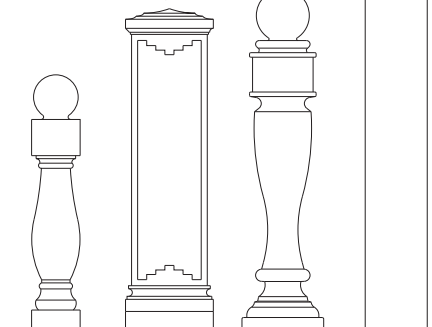


BA01 120φ×300×600 BA02 120φ×600 BA03 160□×800 BA04 112φ×600 BA05 160φ×800 BA06 130φ×440 BA07 160φ×1,015

※寸法・形状は予告無く変更することがあります。
※手摺子に手摺を組合せると合計のH寸法が10mm小さくなりますのでご注意ください。

●親柱

(H800タイプと共使用の場合は1,065mm高さ)



BG00 161□×850 BG01 290□×1,000 BG02 270□×1,130 BG03 205□×1,315



●手摺

ET01

200×100×2,000

ET02

150×75×2,000

■副資材 ●はセット価格に含まれます。

●手摺端末ベース
(巾10mm)

ET01用

ET02用

ET02用

ET02用

●笠木
アルミ板金
t=2mm

●オールアンカー

●固定用アンカー
三分ボルト用

●手摺出隅役物

ET01用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

ET02用

●パテセット・塗装セット

※パテセットは親柱3本につき1セット同梱されます。
タッチアップ・シーリングセットは手摺4mにつき1
セット同梱されます。

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

パテ

硬化剤

サンドペーパー

●塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

塩ビ平板

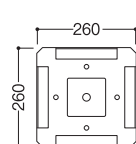
●親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き親柱鉄骨芯柱
ベースプレート付き

■鉄骨芯柱ベースプレート

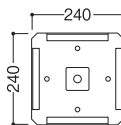
●BG00用鉄骨芯柱ベース



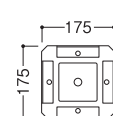
●BG01用鉄骨芯柱ベース



●BG02用鉄骨芯柱ベース

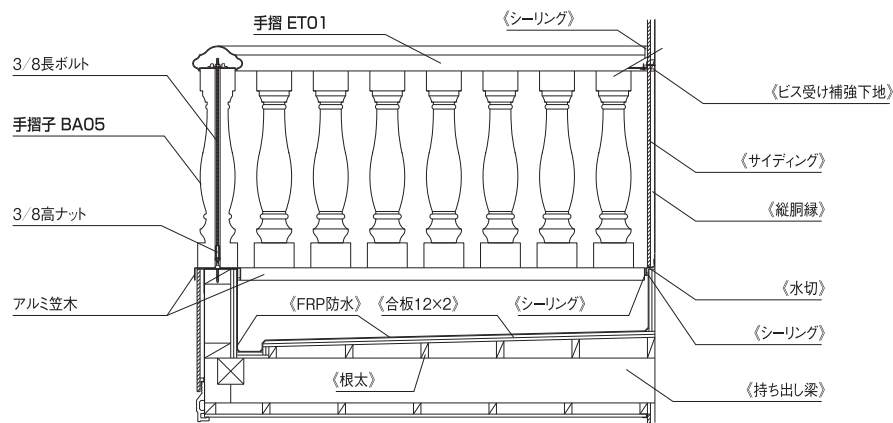


●BG03用鉄骨芯柱ベース



■参考納まり図 ※《 》内は別途工事を示します。

●バルコニー手摺 BA05



■エクラート手摺組合せ図

●各部材の組合せは下記を参照ください。

●手摺と手摺子のみの組合せで親柱を使用しない方法も可能ですが、手摺強度確保のため、連続する手摺4m以内に1本の親柱の使用をお奨めします。

親柱 手摺子	BA01	BA02	BA03	BA04	BA05	BA06
BG00	●手摺はET02のみ可能。 					●BA06は手摺と手摺子の組合せで使用していただきます。
BG01	●手摺はET01、ET02とも可能。 ●BG01 H=1,000	 ●BG01 H=1,000	 ●BG01 H=1,065	 ●BG01 H=1,000	 ●BG01 H=1,065	
BG02			 ●BG02 H=1,065		 ●BG02 H=1,065	
BG03	●手摺はET01、ET02とも可能。 ●BG03 H=1,000	 ●BG03 H=1,000	 ●BG03 H=1,065	 ●BG03 H=1,000	 ●BG03 H=1,065	 ●BG03 H=1,065

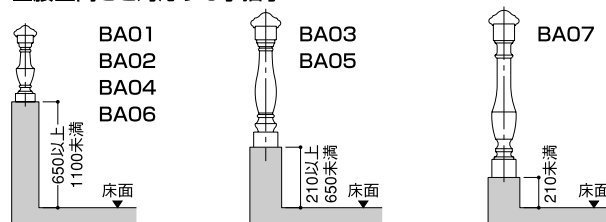
■エクラート手摺の高さと間隔(ピッチ)について

●手摺の高さは建築基準法施行令第126条により1,100mm以上と規定されております。

エクラート手摺子のピッチ(手摺子～壁間、手摺子～親柱間も含む)は、表-1のスタンダードピッチが基準ですが、お子様の転落防止対策も含め、お客様の意向を確認の上決定してください。また、品確法の「9-1高齢者等配慮対策等級」の転落防止のための手摺として、等級2以上を取得される場合には以下の高さ基準および手摺子の間隔(ピッチ)基準の表-2に従ってください。

手摺の高さ基準

■腰壁高さに対応する手摺子



手摺子の間隔(ピッチ)基準

●お子様の転落防止対策を重視する場合、および品確法において「9-1高齢者等配慮対策等級」の転落防止のための手摺として等級2以上を取得する場合のエクラート手摺子の間隔は、表-2の擦り抜け防止基準ピッチを目安としてください。

■表-1 スタンダードピッチ (110ピッチ※)

部位	手摺子間 A	壁面 B	親柱間 C			
手摺子	A	B	BG00	BG01	BG02	BG03
BA01	300※	150	230.5	265	252.5	252.5
BA02	250	180	265	300	290	290
BA03	250	160	280	250	260	260
BA04	225	170	250	285	270	270
BA05	250	180	290	250	280	280
BA06	225	160	280	250	270	270
BA07	250	170	290	250	280	280

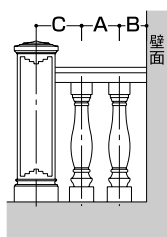
※BA01のピッチは300mmの固定となりますので、転落防止対策を十分ご検討ください。

■表-2 擦り抜け防止基準ピッチ (110ピッチ※)

部位	手摺子間 A	壁面 B	親柱間 C			
手摺子	A	B	BG00	BG01	BG02	BG03
BA03	185	140	260	220	245	245
BA05	185	140	260	220	245	245
BA07	195	140	260	220	245	250

※「相互の間隔が内法寸法で110mm以下であることを示します。」

※BA01、BA02、BA04、BA06は品確法の「9-1高齢者等配慮対策等級」の転落防止のための手摺として等級2以上を取得する場合、腰壁の高さが650mm以上必要です。この場合擦り抜け防止基準は適用外となります。

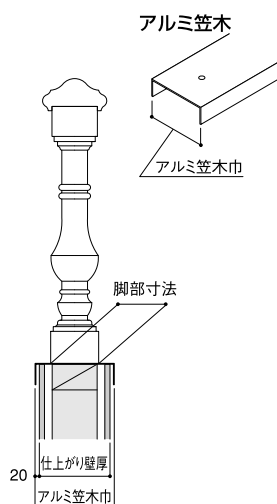


■笠木巾寸法と仕上がり壁厚

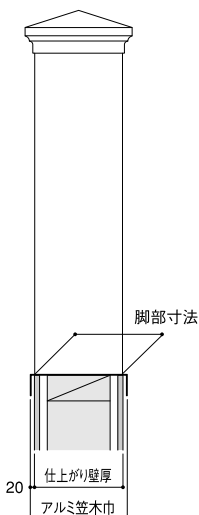
- アルミ笠木の巾寸法は、手摺子または親柱の脚部寸法+20mm以上が標準です。また、アルミ笠木の両側の立下り部と壁仕上げの間隔は約20mmが標準です。従って仕上がり壁厚は下記の図・表を参照ください。

部 材	型 番	脚部寸法	アルミ笠木巾	仕上がり壁厚
親 柱	BG00	□161	181	141
	BG01	□290	310	270
	BG02	□270	290	250
	BG03	□205	225	185
手摺子	BA01	φ120	140	100
	BA02	φ120	140	100
	BA03	□160	180	140
	BA04	φ112	132	92
	BA05	φ160	180	140
	BA06	φ130	150	110
	BA07	φ160	180	140

●手摺子の場合

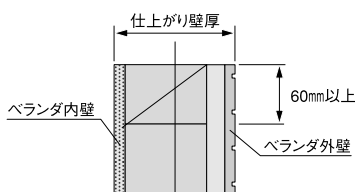


●親柱使用の場合



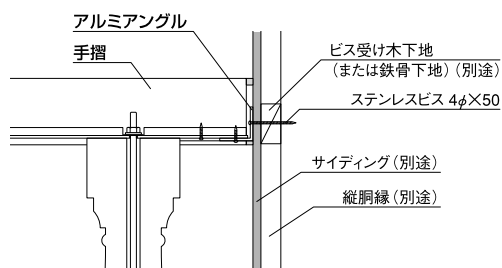
■天端の仕上がり壁厚(計画寸法)と下地壁厚

- 仕上がり壁厚とは、木下地だけでなく、胴縁や外壁材など仕上げ材を含んだ壁厚をいいます。



■取付け下地について

- 手摺壁下地は木造の場合は厚60mm以上としてください。(上図)
 ●鉄骨造の場合は厚2.3mm以上としてください。
 ●RC造の場合は天端を水平に仕上げてください。
 ●手摺と壁の取合い部にはビス受け用の補強木下地(または鉄骨下地)を設けていただくよう、現場の大工さんと打ち合わせをしてください。(下図)

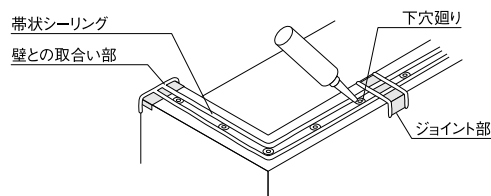


■手摺のシーリング要領

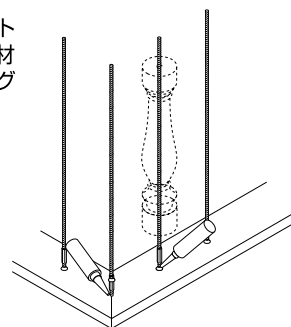
- 漏水事故防止のため、下記の部分に確実にシーリングをしてください。

●下地シーリング

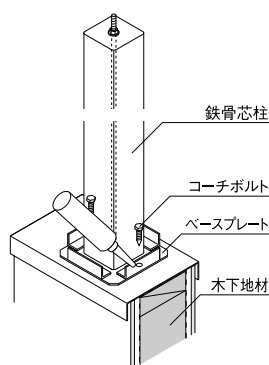
- 笠木取付け前にシーリング処理をします。特に下穴廻り、アルミ笠木ジョイント部、壁との取合い部は念入りにシーリングしてください。



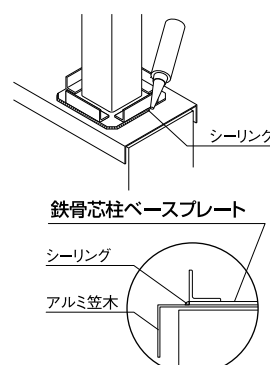
- アルミ笠木を取付けて全ネジ長ボルトを取付けた後、手摺子と親柱鉄骨芯材建て込み前にボルト廻りにシーリングします。



- 親柱鉄骨芯材のコーチボルト下穴廻りにシーリングします。



- 親柱鉄骨ベースプレート周囲にシーリングします。

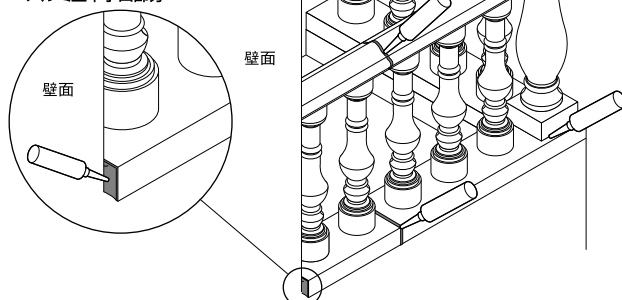


●仕上げシーリング

- 以下の場所にシーリングします。(シーリング施工場所にはプライマーを塗布してください。)

- 手摺端部の壁取合い部分
- 手摺端部の親柱取合い部分
- 手摺のジョイント部分
- 親柱の柱脚とアルミ笠木の取合い部分
- アルミ笠木のジョイント部分
- アルミ笠木と壁の取合い部分

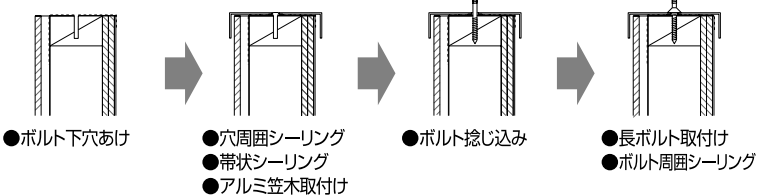
- アルミ笠木小口部分



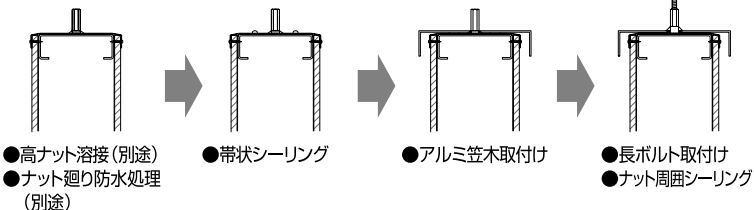
■施工資料図

●手摺子・手摺組立て図

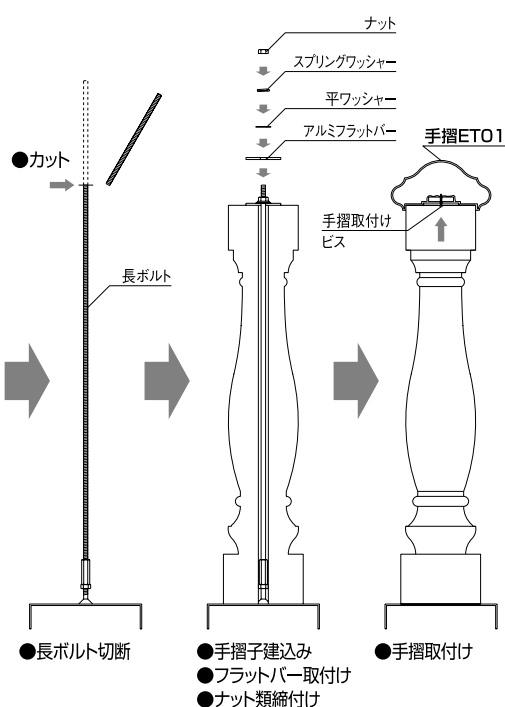
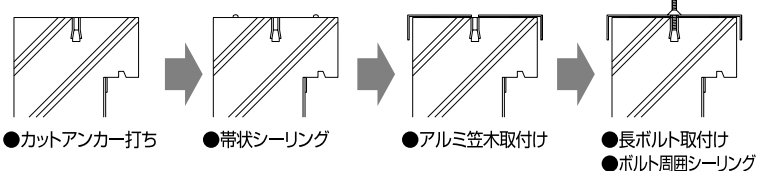
木下地



鉄骨下地

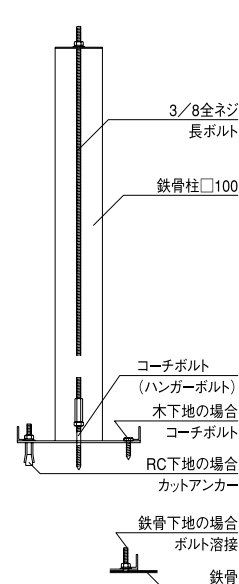


RC下地

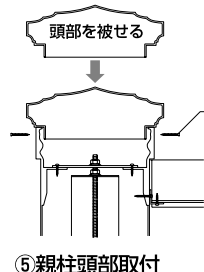
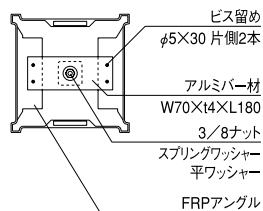


●手摺子・手摺組立て図

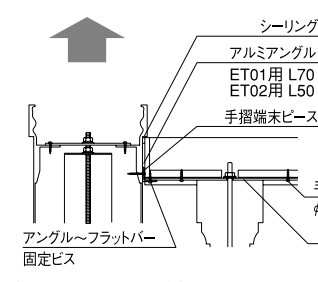
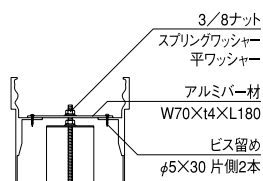
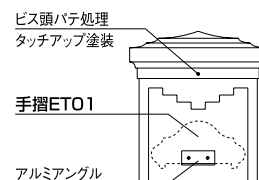
●鉄骨下地



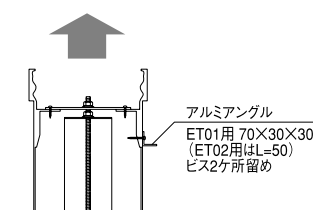
●頭部平面図



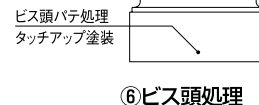
⑤親柱頭部取付



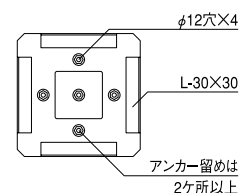
④手摺・手摺子取付



③アルミアングル取付



①鉄骨芯柱取付



②親柱本体取付

